

2021 年全豪オープン短評 (2)

大坂なおみ、全豪 2 勝目まであと 2 戦

難しい試合が予想された大坂なおみの全豪 5 回戦、対謝淑薇 (シェイ・スーウェイ) 戦は大坂の圧勝に終わった。試合時間 66 分の完勝である。全豪制覇まであと 2 戦となった。18 日の準決勝、対セリーナ・ウィリアムズ戦が、事実上の決勝戦となろう。

大坂が全豪を初めて制した 2019 年の大会で、この 2 人は 3 回戦で対戦した。この要約版のビデオは、YouTube (https://www.youtube.com/watch?v=qICUDS_WLac&t=694s) でみることができる。この試合、大坂は第 1 セットを 5-7 で落とし、第 2 セットも 1-4 と敗戦濃厚だった。とにかく、謝はコートを走り回って、大坂の強打を返していた。大坂が打っても打ってもボールが戻ってくる。忍耐が切れたところで、大坂がミスをするというパターンで後がなくなっていた。

このビデオを見ると、改めて謝の怖さが分かる。右左とも両手打ちの謝はとにかくボールをラケットに当てるのがうまい。しかも、甘いボールが来ると、角度を付けて返球するのでウィナーになる。

ところが、開き直った大阪は、ゲームカウント 1-4 から 5 ゲームを連取して第 2 セットをひっくり返し、その勢いで第 3 セットを 6-1 で押し切った。怒涛のような終盤の猛攻だった。1-4 から勘定すると、なんと 10 対 1 のゲーム取得率である。

今回もパターンが良く似ている。4 回戦の対ムグルーザ戦で敗戦直前から挽回し、準決勝のウィリアムズ戦を迎える。揉めに揉めた 2018 年全米オープンの因縁の対戦から初めての公式戦対決である。24 回目のグランドスラム制覇を目指すウィリアムズは体を絞ってきた。動きが良い。対する大坂の状態も非常に良い。ここで大坂が 16 歳も年上の憧れのウィリアムズに引導を渡せるかどうか。ここにこの試合の見どころがある。

それにしても、今年的全豪の女子シングルスのだローだが、地元のバーティ (世界ランク 1 位) が入った上の山と、大坂やウィリアムズが入った下の山では選手の質が違いすぎる。それは 4 回戦 (ベスト 16) の組み合わせを見れば良くわかる (赤がグランドスラム優勝経験者)。

Barty の山

Barty - Rogers

Mertens - Muchova

Vekic - Brady

Pegula - Svitolina

大坂-Williams の山

Hsieh - Vondrousova

Osaka - Mugruza

Williamas - Sabalenka

Swiatek - Halep

Barty の山の 4 回戦で、グランドスラム大会で優勝しているのは Barty1 人だけだが、大

坂-ウィリアムズの山には4名のグランドスラム優勝者が残った。もちろん、Bartyの山にもグランドスラム優勝者はいたが、ステイーヴンス、アザレンカ、オスタペンコは1回戦で負け、ヘニンは2回戦で、プリスコヴァは3回戦で姿を消した。皆、故障を抱えているか、強制隔離で練習ができずに早々と敗退し、4回戦ではBarty1人になってしまった。これにたいして、地元のBartyは十分に練習を積んで今大会を迎えているから、ベスト8まで楽勝で勝ち上がってきた。

他方、大坂やWilliamsの山は、好調な選手が多く、ハイレベルな戦いが繰り広げられてきた。4回戦の戦いを比較すると、上の山と下の山では雲泥の差がある。大坂-Muguruz戦だけでなく、Williams-Sabalenka戦などは、獲得ポイント数が双方とも94ポイント・イーヴンの壮絶な打ち合いだった。気の抜けたようなBarty-Rogers戦とは比較にならない試合だった。楽勝の組合せが最終的にBartyに有利に働くのか、それとも激戦を潜り抜けてきた下の山の勝者がBartyを打ち負かすのか。セリーグとパリーグのような戦いになってきた。これが女子シングルス終盤の見どころである。

まずは18日の大坂-Williams戦のお楽しみである。